

20053

情報共有を目的としたデータベースを作成して

<sup>1</sup>函館市医師会病院

金澤 雄二<sup>1</sup>

【目的】患者の個別性に合わせた安楽な心カテ体位ができ、カテスタッフ間の情報の共有ができること。【方法】データベース予約表にリンクした、治療部位や使用デバイスの他に心カテ中の体位保持に使用した物や身体・精神的な情報も残せるカテ室記録を作成し運用する。【結果】当院の心カテスタッフはCT、MR I、R I、エコー等の検査も兼任しており、術前訪問や事前の情報収集に費やす時間が少ない現状にある。心カテ台に臥床した時に「腰が悪いからタオルを入れてほしい」「足先が冷えるからもう一枚掛けてほしい」など自分から言える患者は殆ど居ない。また肘が水平に伸展せずタオルやスポンジを使い穿刺部を固定する場合などもある。前回の情報があることで何も言わずに安楽な体位を素早くとることができ検査や治療時間の短縮に繋がった。過去に行った心カテ結果が一覧できるようになりカテカンファレンスの効率化に繋がり、心カテ台への移動や体位を整える物品も同時に話されるようになった。患者情報の共有ができるようになり、他のコメディカルも積極的に患者の特徴を知った対応や声かけをしてくれるようになった。心カテ後に記録することにより、振り返りができ経験の少ないスタッフのスキルアップに繋がった。【結語】患者のカテ体位等の情報も取り入れたデータベースは有効であった。今後このデータベースの評価も行き検討、改善していきたい。